

ビルドテックフッ素REVO-IR

水性形一液外壁用遮熱フッ素系上塗材

ビルドテックフッ素REVO

水性形一液外壁用フッ素系上塗材

◆製品データ

荷姿	15kg、4kg
塗布量	0.25～0.35kg/m ²
希釈	ローラーの場合：0～5%（清水） エアレスの場合：5～10%（清水）
艶	艶有・3分艶
色	アステック標準色68色

【対応素材】
モルタル・ALC・コンクリート・窯業系サイディング・金属サイディング
（カラー鋼板※1・ガルバリウム鋼板・ステンレス・アルミニウム）・各種旧塗膜
※1：フッ素鋼板は除く

【試験結果】
■JIS A 6909 建築用仕上塗材 『可とう性』 合格
■JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルションペイント
『容器の中の状態』『塗装作業性』『塗膜の外観』『低温安定性』『表面乾燥性』『隠ぺい率』『鏡面光沢度※』
『耐水性』『耐アルカリ性』『耐洗浄性』『耐湿潤冷熱繰返し性』 合格 ※艶有のみ
■『防かび性』 合格 ※社内試験による（参考試験方法：JIS Z 2911 塗料一般試験方法）
■『防藻性』 合格 ※社内試験による

◆モルタル・ALC・コンクリート・窯業系サイディングの標準施工仕様

工程	製品名	荷姿	調合比	希釈	塗布量	塗回数	施工間隔(25℃)			塗装法
							工程内	工程間	最終養生	
下塗※1	① エポパワーシーラー	15kg	—	透明の場合： —	0.13～0.20 kg/m ²	1～2	2時間以上	2時間以上	—	ローラー/ エアレス
				白の場合： 1.5～3.0ℓ（清水）						
	② 水性一液 ビルドフィラー※2	16kg	—	0.3～0.9ℓ（清水）	0.80～1.5kg/m ²	1	—	5時間以上	—	多孔質ローラー
0.9～1.2ℓ（清水）	0.30～0.60kg/m ²	1～2	5時間以上	5時間以上	ウールローラー					
	0.6～0.9ℓ（清水）	0.70～1.2kg/m ²	1～2	5時間以上	5時間以上	リシンガン				
上塗	ビルドテック フッ素REVO(-IR)	15kg	—	ローラーの場合： 0～5%（清水） エアレスの場合： 5～10%（清水）	0.25～0.35 kg/m ²	2	2時間以上	—	24時間 以上	ローラー/ エアレス

※1 下塗材に関しては下地の状態に応じて①、②のいずれかをご使用ください。 ※2 窯業系サイディング（初めての塗替え）には水性一液ビルドフィラーエポをご使用ください。

◆【金属サイディング（カラー鋼板※1・ガルバリウム鋼板・ステンレス・アルミニウム）の標準施工仕様】※1：フッ素鋼板は除く

工程	製品名	荷姿	調合比	希釈	塗布量	塗回数	施工間隔(25℃)			塗装法
							工程内	工程間	最終養生	
下塗	① エポパワーメタルJY A液	14.4kg	9	0.8～2.4ℓ （アステックシンナーDX）	0.14～0.17 kg/m ²	1	—	4時間以上 7日以内	—	ローラー/ エアレス
	② サーマテックメタル プライマー※2	16kg	—	0.8～1.6ℓ （アステックシンナーDX）	0.13～0.15 kg/m ²	1	—	4時間以上 7日以内	—	ローラー/ エアレス
上塗	ビルドテック フッ素REVO(-IR)	15kg	—	ローラーの場合： 0～5%（清水） エアレスの場合： 5～10%（清水）	0.25～0.35 kg/m ²	2	2時間以上	—	24時間 以上	ローラー/ エアレス

※2：施工及び乾燥時の気象条件、金属下地の温度、また狭窄部（狭くすぼまった部位）やトタンの継ぎ目部分等では、乾燥硬化に時間を要してしまう場合があります。乾燥硬化していない状態で上塗りを施工した場合、本来の下地への付着性能が発揮できなくなる場合がありますのでご注意ください。

【下地調整】
・劣化し脆弱な部分及び錆等は、ディスクサンダー、スクレーパー等により除去する。 ・漏水箇所は予め水が浸入しないように処置し、汚れ、付着物、油脂類等を高圧洗浄、スクレーパーやシンナー等で除去する。
・塗装する下地は、清浄かつ、十分に乾燥させる。 ・劣化したシーリング材は全て撤去し、新規シーリング材で打ち替える。

【施工上の注意】
・雨・強風・結露等の悪天候及びこれらが予想される場合には施工は避けてください。 ・5℃以下、湿度85%以上の施工は避けてください。 ・使用前に塗料を十分に攪拌してください。
・ウールローラー施工の場合、塗回数が増えることがありますのでご注意ください。 ・エアレス施工の場合には塗装ロスが大きくなりますので、塗布量の上限値を目安にしてください。
・上記塗布量及び塗回数は下地の材質・状態等で増える場合があります。 ・シーリング材目地に塗装した場合、動きに追従出来ずに塗膜がひび割れることがあります。
・塗り継ぎや補修塗り（タッチアップ）を行なう場合は、ローラー又はエアレス等の塗装方法や希釈率の違いにより、色相差・艶ムラが生じることがありますので、作業後に仕上りをご確認ください。
・トタンの継ぎ目、折り曲げ部分は、塗膜が薄くなりがちですので、先に拾い塗りをすることをお勧めします。

■製品については下記までお問合せください。



製造・販売元 株式会社 アステックペイント

福岡本社 / 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3-14-1 9F
福岡事業本部 / 〒811-2233 福岡県糟屋郡志免町別府北4-2-8
東京営業所 / 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-6-1-10F
大阪営業所 / 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-5-3 B1
沖縄営業所 / 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜1-1-6 B1

astecpaints.jp

ver.202208

Renewal Line
**BUILDTEC
SERIES**

リニューアルライン
ビルドテックシリーズ

アステックペイント大規模改修専用

ビルドテック フッ素REVO(-IR)

ビルドテックシリーズ



ビルドテックフッ素REVO-IR
水性形一液外壁用遮熱フッ素系上塗材

ビルドテックフッ素REVO
水性形一液外壁用フッ素系上塗材

艶有・3分艶



建物を長く美しく守るために必要な、高耐候性・低汚染性・遮熱性*を兼ね備えた革命的なハイクラス フッ素塗料。*ビルドテックフッ素REVO-IRのみ

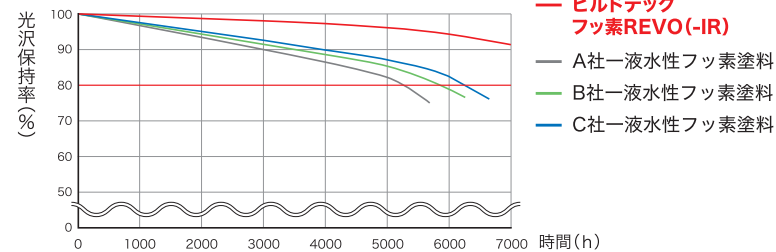
ビルドテックフッ素REVO(-IR)

高耐候性 紫外線や雨などの劣化要因に強い

ビルドテックフッ素REVO(-IR)は、キセノンランプ式促進耐候性試験において、約16~20年(期待耐用年数)経過後も光沢保持率80%以上を保持。高い耐候性を持ちます。

※あくまで試験環境下にもとづく推測値であり、耐候性を保証するものではありません。実際の自然ばく露環境下では、下地の状態、施工方法、気象条件により耐候性は異なる場合があります。

■促進耐候性試験(キセノンランプ式)



※測定値をもとに、グラフをなだらかに調整しています。

【高耐候の理由】紫外線による劣化を抑制する「ラジカル制御白色顔料」を採用

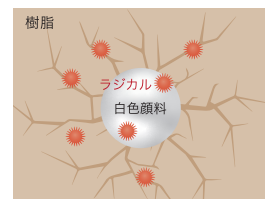
一般的に塗料で使用される白色顔料の主成分「酸化チタン」は、紫外線の影響を受けると劣化要因「ラジカル」を発生させます。ラジカルは、塗膜の結合を破壊し、塗膜の劣化の原因となります。ビルドテックフッ素REVO(-IR)はこのラジカルの発生を抑制する「ラジカル制御型白色顔料」を採用。ラジカルが発生しにくく、またラジカルが発生した場合にも、シールド層がラジカルの放出を防ぐため、樹脂が破壊されにくく、劣化を抑制します。

■ラジカル制御型白色顔料



ラジカルが発生しにくく、発生した場合もシールド層がラジカルの放出を抑える。

■一般的な白色顔料

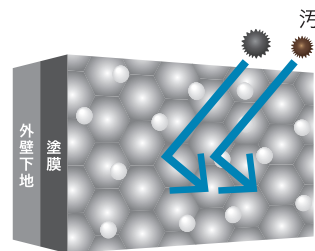


発生したラジカルにより、塗膜が破壊。

低汚染性 汚れが付着しにくい塗膜

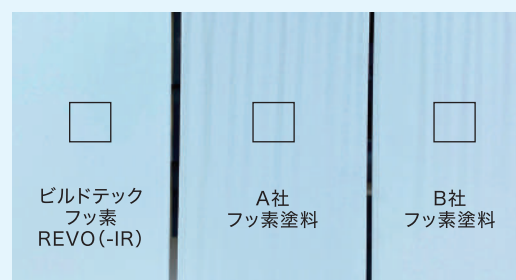
一般的な塗料に使用されているフッ素樹脂は塗膜表面に汚れが付着しやすいという課題を抱えています。ビルドテックフッ素REVO(-IR)の塗膜表面は強靭性を有しているため、塗膜表面に汚れが付着しにくく、建物の美観を維持します。

■ビルドテックフッ素REVO(-IR)

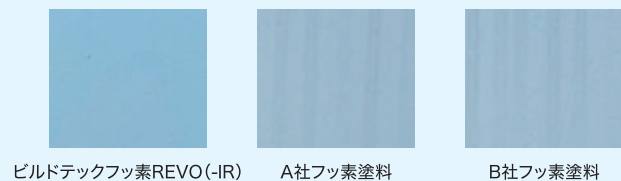


塗膜表面が強靭なため、砂埃が刺さりにくく、排気ガスなどが染み込みにくい。

低汚染性実証実験 ~屋外ばく露雨筋試験6ヶ月後比較~



〈拡大写真〉

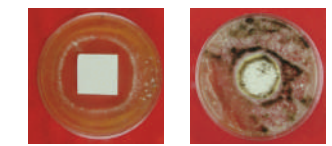


一般低汚染フッ素塗料と比較して雨筋汚れが付きにくく、塗替え後の美しさを保持することが確認されました。

カビ・藻の発生を抑え、建物の美観維持に貢献

「JIS Z 2911カビ抵抗性試験方法(社内試験規格)」及び「藻抵抗性試験(社内試験による)」に合格。カビ・藻の発生を抑え、美観の維持に貢献します。

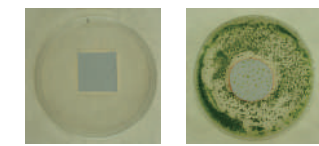
【カビ/培養4週間後の様子】



ビルドテックフッ素REVO(-IR)

汎用塗料

【藻/培養4週間後の様子】



ビルドテックフッ素REVO(-IR)

汎用塗料

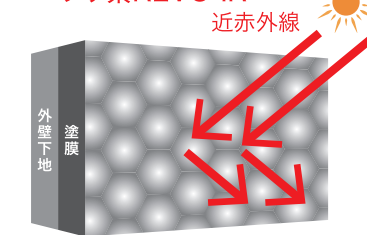
遮熱性 生活環境を快適化 ※ビルドテックフッ素REVO-IRのみ

ビルドテックフッ素REVO-IRは、近赤外線における日射反射率が高く、熱を吸収しにくい「チタン複合遮熱無機顔料」を使用しています*1。塗膜温度の上昇による建物の蓄熱を防ぎ、屋内の温度上昇を抑えます*2。

※1:一部の色を除きます。 ※2:建物構造、断熱構造、開口部(ガラス窓等)の大きさ・数によって温度変化の程度に差がでます。

遮熱性のメカニズム 遮熱効果の高い「チタン複合遮熱無機顔料」を採用

■ビルドテックフッ素REVO-IR



近赤外線を反射し塗膜の表面温度の上昇を抑制

■一般的な塗料



近赤外線を吸収しやすく塗膜の表面温度が上昇

無機顔料の平均日射反射率(%)

	780~2500nm (近赤外線領域)
チタン複合遮熱無機顔料	46
Fe系遮熱顔料	35
Mn系遮熱顔料	42
カーボンブラック	6

遮熱性検証実験

塗料を塗ったサイディング(色:N6グレー)に約2時間照明を当て続け、表面・裏面の温度を放射温度計で測定。ビルドテックフッ素REVO-IRは一般フッ素塗料に比べて表面・裏面ともに約9℃の温度差があり高い遮熱性を発揮することが確認されました。



実験の様子



放射温度計

